

3 生徒指導

(1) 生活上の問題

ア 生活上の問題を学びへ

生活上の問題をどうやって学びにつなげたいのかな？

生活上の様々な問題は、学びのチャンス

「掃除をさぼる人が多いよね。」 「楽しく学校生活を送りたい」 「掃除のやる気アップ
「みんなですると早く終わるのに」 「もっと居心地の良い学校にしたい」 ができないかな。」

生活の問題 → 成長欲求 → 学び

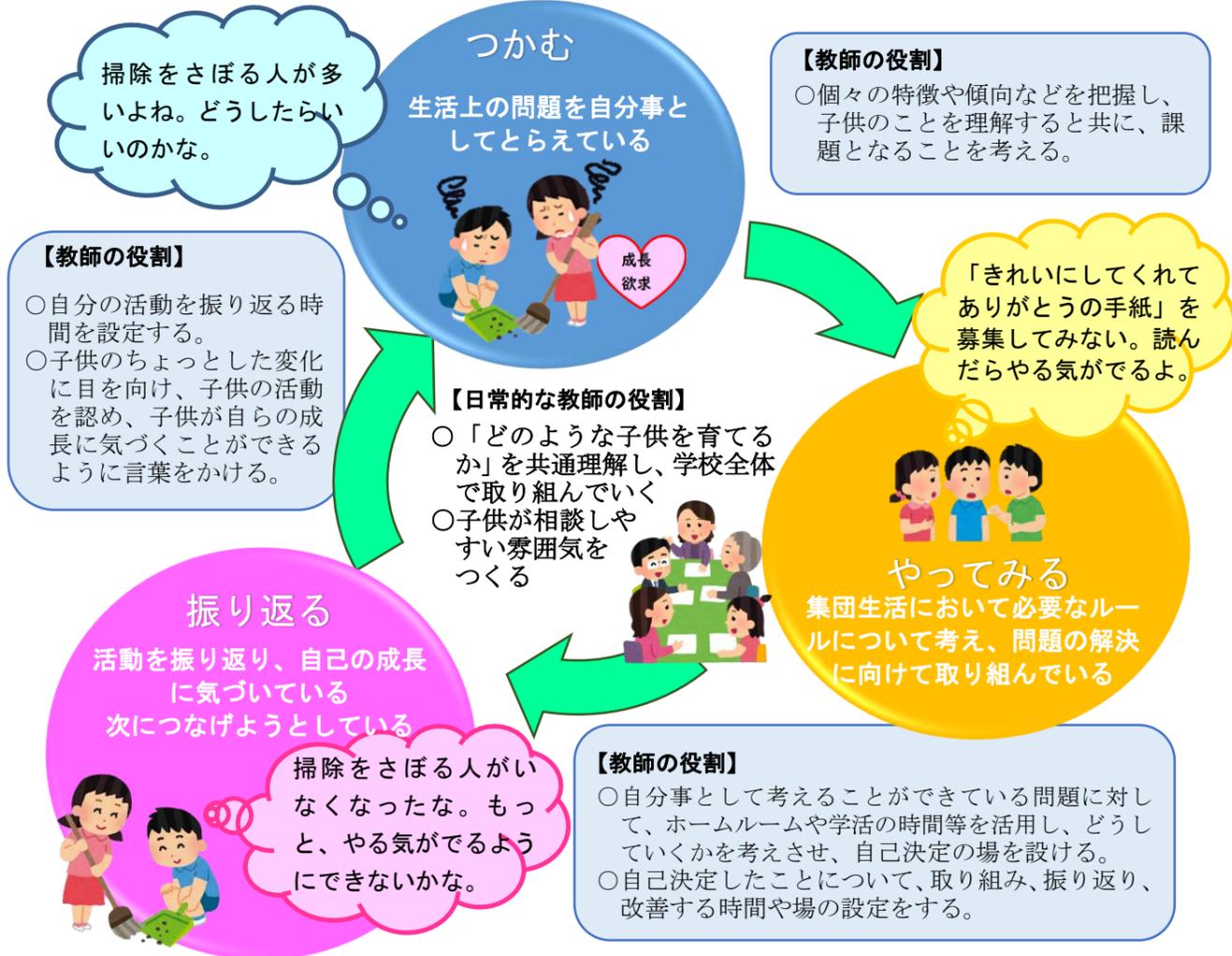
生活上の問題における学びとは

今よりもっと楽しく生活したい、居心地の良い学校にしたいという欲求をもとに、生活上の問題の解決に取り組み、活動を振り返って自己の成長に気づくこと。

注意されて自己肯定感ダウン → 学びを振り返って自己肯定感アップ

生活上の問題が注意だけで終わってしまうと、自己肯定感が低下してしまいます。学びの成果として「〇〇ができた」「みんなの役に立った」といった自己有用感を味わうことで、自己肯定感が高まり「もっと生活上の問題の解決に取り組もう」とする子供になります。

イ 生活上の問題を学ぶにすための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 生活上の問題を学ぶにすの際に大切にしたい3つの視点

見つめる (子供理解)

望ましい人間関係を土台に、一人一人の内面を見つめる

○日常的な子供理解（言葉かけ、観察）、子供の背景把握（保護者との情報共有）、多面的な子供理解（Q-U、各種アンケートなど）をもとに、その子供にあった具体的な指導や支援を考える。

支える (学び支援)

子供が成長欲求を満たすことができるように、学びを支える

○子供が自発的かつ主体的に自己を成長させていく学びの過程を、支援する。
○“魅力ある学級づくり”を通して、子供一人一人が活躍できる「居場所」を作る。

共感する (自立支援)

「自尊感情」、「自己肯定感」、「自己有用感」、「自己効力感」などの成長に共感する

○集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと育つよう促す。
○児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを支援する。

エ 関連資料

- ・生徒指導提要（平成22年3月作成）
生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書
文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm

- ・生徒指導リーフ（平成24年から）
ピンポイントで解説や提案を行う新しい形の生徒指導資料
国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター
<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/index.html>

生徒指導提要(改訂版)

https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf



【コラム】信頼関係を土台にして

児童生徒と教員の間には好ましい人間関係をつくるのが重視されなければなりません。信頼関係は教員の児童生徒に対する日ごろの接し方や言動によって作られるものです。一般的に、コミュニケーションで伝わる内容は、言語的内容は30%で、非言語的内容が70%とされています。つまり、教員は言葉だけではなく、言葉と同じメッセージを態度でも伝える必要があります。例えば、「廊下を歩くときはゆっくり歩く」、「児童生徒とすれ違うときは、目を合わせる、声をかける、笑顔を見せる」などを心がけることや、「廊下で児童生徒に声をかけられたら、足を止める、身体を逆向きにしないで話を聴く」、「職員室などで仕事に声をかけられたら、ペンを置く、キーボードから手を離す」などは、児童生徒との信頼関係を築くうえで大切なことです。

引用：生徒指導提要，平成22年3月作成，文部科学省

